

京都市産業科学 技術振興計画（仮称）

骨子案

あなたの
ご意見・ご要望を
お寄せください

京都市では、21世紀のものづくりの方向性と世界的な状況の変化を踏まえ、「ものづくり都市・京都」の更なる活性化を図るため、「京都市産業科学技術振興計画（仮称）」を策定することとしました。

今回、骨子案の概要を分かりやすく紹介するリーフレットを作成し、市民の皆様のお考えを計画に反映させるため、意見募集を行います。リーフレットをご覧になられて思われたこと、計画に盛り込むべき内容など、多くの声をお待ちしています。

はじめに

策定の趣旨

この計画は、国の第3期科学技術基本計画と整合性を取りながら、産業科学技術振興という視点から京都市スーパーテクノロジー構想を一層推進するための行動計画として、産業科学技術振興の基本的方向、重点推進施策及び推進体制を取りまとめたものです。

- *「第3期科学技術基本計画」：科学技術基本法（平成7年制定）に基づき、科学技術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため実行すべき主要施策を提示した計画。第3期計画は、平成18年度からの5年間を対象
- *「スーパーテクノロジー構想」：活力あるまちを実現するため「ものづくり」の視点から策定した産業振興ビジョン（平成14年3月策定）

策定の背景

京都市では、市内ものづくり産業の現状を把握するため、平成15年度に「京都市ものづくり産業調査」を実施しました。この調査により、企業の強みや今後強化したいものは「技術力・製造（加工）精度」であることが明らかとなりました。

また、何らかの研究開発を行っている企業は、全事業所の24%を占め、全国に比べても高い数値であるとともに、産学連携の実績のある事業所のうち85%が、技術レベルの向上等に成果があったと回答しております。

こうした調査結果から、「ものづくり都市・京都」の更なる活性化には、企業の強みであり強化したいと考えている「技術力」向上の支援が求められているといえます。

計画期間

この計画の期間は、2010年（平成22年）までとなります。

また、この計画の推進に当たっては、各施策の進捗^{ちよく}状況や社会状況の変動などに応じて適宜見直しを行うものとします。

がんばる京都の中小企業・大学発ベンチャー

- A社は、時代に先駆けて歯科用レントゲン撮影装置を製造。3Dパノラマ撮影装置は、高品質な画像提供と自由自在な画像処理を可能にし、先進治療をサポート
- B社は、小型化する電子機器に搭載される充電型電池の分野に特化。リチウムイオン電池のレーザー溶接機のほか電池検査装置でも海外市場でトップ
- C社は、基礎研究で蓄積した独創的な薄膜技術により独自の高精密電子部品を開発・商品化。電子・電機産業分野で世界的にも高い評価
- D社は、暖房や給湯器に欠かせない自動点火装置の国内トップメーカーの地位に立つ。近年では、瞬時に1200℃を発生する点火装置を世界に先駆け開発
- 大学発ベンチャーであるE社は、機能性食品素材の研究開発型バイオベンチャーに成長。京都市ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定を受けるほか、桂イノベーションパーク研究施設用地へ第1号として進出
- F社は、現社長が大学在学中に起業。インターネットを活用したブログ（日記風の簡易ホームページ）等の開発・運用に手がけ、京都高度技術研究所の奨励金を獲得するなど、業績を着実に伸ばし一部上場を果たす。

*「元気なモノ作り中小企業300社」（経済産業省）などから引用

1 産業科学技術振興の基本的方向

21 世紀のものづくり

「ものづくり」は、人間に与えられた最も大事な天性で、常により良いもの、より美しいものを作り出す喜びが文明を広め、文化を磨いてきました。

18 世紀の産業革命以降、「工業社会」が実現しました。しかし、大量生産・大量消費・大量廃棄による経済成長の限界が見えている今日、付加価値を生み出す「ひと」の能力そのものが最も重要な要素となる「知識社会」へと移りつつあります。知識社会においては、「ひと」の能力が発揮され融合した「知識」が新たなイノベーションを引き起こす原動力となります。

* 「ひと」：個人としての人のみならず、企業、団体等組織をも含む概念としてとらえている。

* 「イノベーション」：科学的・技術的発見を洞察力と融合し発展させ、新たな社会的・経済的価値を生み出す革新

世界的な状況の変化

今日、少子・長寿社会の一層の本格化による労働力人口の減少や社会保障への負担の増大とともに、団塊世代の退職による「ものづくり」への影響が懸念されています。

また、国境を越えた人的、文化的、経済的交流があらゆるレベルで盛んになり、国際競争が激化し、グローバル化への対応が迫られています。

更に、20 世紀に築かれた工業社会により環境問題が表面化しましたが、経済活動と調和した持続可能な社会を構築していくことが求められています。

こうした状況の中、地方行政は、地域住民が自らの判断で地域のことを決定し、その責任の下、個性豊かな地域社会と文化の形成を目指す、新しい時代にふさわしい地方主権を確立するときを迎えています。

産業科学技術振興の基本姿勢

科学技術の発展は、健康、経済、生活の利便性、グローバル化や情報通信技術の活用など、社会の在り方そのものにも大きな変化をもたらす一方、大量破壊兵器の製造、地球環境問題の発生のほか、バイオテクノロジー（生命工学）に関する倫理的問題や安全面での懸念など、新たな課題が明らかとなっています。

このような課題に対処するため、科学技術は人類のためにという視点の下、社会の様々な要請にしっかりとこたえていくことが必要であり、産業振興の面においても、人類のより良い未来を切り開いていく姿勢が求められています。

京都らしさ

京都では、地域の職人が常に先進的な技術を蓄積しながら、新しいものを京都流として消化することで「ものづくり」の伝統を保ってきました。もとより、伝統は、常に新しいものを創造する志が必要です。ここに京都の「ものづくり」の真髓があり、時空を超えて美を追い求めてやまない「京都の風土」の中に現れるものです。

京都は、「大学のまち」として、イノベーションが触発できるまちであるとともに、1200 年の歴史の中に凝縮された濃厚な文化と芸術に触れられるまちでもあり、こうした環境は、新しい「知」を創造するのにふさわしいまちであります。

また、自らの「知識」と「経験」により最高のものを生み出そうとする職人文化による京都発の「ものづくり」は、日本のアイデンティティの担い手としての役割を果たし、日本の産業の顔として世界に向けて発信し続けてきました。

京都における産業科学技術の振興に当たっては、京都らしさを最大限に生かしながら絶えざる技術革新を生み出す仕組～革新の挑戦をし続ける科学技術都市・地域イノベーション・システム～を築き上げていかなければなりません。

人材育成

科学技術都市の核となるのは、多様な「ひと」の総和です。様々な分野を担う人材育成のためには、個々の人材の能力を最大限に伸ばし、最大限発揮させていくことが重要です。一人ひとりの個性を引き出す取組が必要です。

とりわけ、新しい分野を開拓するには、高い能力と熱い情熱、強い意志をもった企業家（起業家）の出現が不可欠です。

また、産業科学技術を支える者は、倫理観を涵養し、社会から信頼されることを誇りに、自らを磨き行動することが重要です。

更に、海外からの人材の活用も、大学等との連携を図りつつ、受入体制の構築が求められています。

市民から支持される産業科学技術

科学技術と社会が密接な関係を持ち、社会の安全・安心への意識が高まっている今日、科学技術の重要性や成果を分かりやすく説明するとともに、市民との結び付きを強めていくことが基本です。

また、「ものづくり」の楽しさや伝統的な匠の技のすばらしさなど、地域社会のかわりも含め、ものづくりに親しめる環境づくりを進めていくことも必要です。

京都の強みを生かし、絶えざる技術革新をもたらす科学技術都市を構築するため、産業科学技術の重要性と魅力を訴え、市民に夢と希望を与える取組を市民の目線に立って推進しなければなりません。

産業科学技術振興に向けて

産業科学技術は、「ひと」が人間として感じる心、そして未来を創造する意思があるところに芽吹き、多種多様な「ひと」が集まるところに花が開きます。そのため、京都においては、「ひと」の個性が発揮されるとともに、世界中の人の心を引き付ける魅力を持ち続けることが必要です。

グローバル化が進展する中で、地域の役割は一層重要になっています。科学技術都市の構築に向け、京都が自らの将来に対する責任を持たなければなりません。そのため、産学公を牽引する司令塔が必要とされ、大きな目標を立てて、その実現に向かって効果的な行動計画を着実に推し進めることが求められています。

2 重点推進施策

科学技術都市の構築

「知」と「技」が活発に交流する場～地域クラスターの形成

イノベーションを誘発する環境づくり ～地域クラスターの形成～

ア 京都・地域クラスターの位置付け

京都では、伝統産業、先進基盤技術、豊かな文化・芸術といった、広がりや深みのある「クラスター」の基盤が築かれつつあります。

こうした京都の強みをいかし生み出された重層的な集積・連携を、多様性と厚みのある「京都・地域クラスター」として形づくっていきます。

*「地域クラスター」：地域の優位性を生かした集積と連携による連鎖的な技術革新とこれに伴う新事業創出を引き起こすシステム。「クラスター」とはぶどうの房を意味する。

イ 京都・地域クラスターの重点分野

京都・地域クラスターは、「ナノテクノロジー」（超微細技術）を基盤核技術として、「ライフサイエンス」や「環境」との融合を図ることに重点を置きます。

伝統産業分野については、京都特有のクラスターとして再構築していきます。

京都の地域資源を活用した領域については、文化芸術都市・京都の創生や雇用の創出など地域への貢献も大きく、新たな重点分野として検討します。

環境問題や生活の安心・安全といった多くの要因がからんだ課題の解決に当たっては、人文・社会科学分野を含め、分野を越えた連携を促進します。

クラスター形成のための主要施策

- ① 京都・地域クラスター形成戦略プラン（仮称）の策定
- ② 次期知的クラスター創成事業の推進
- ③ 第Ⅱ期近畿地域産業クラスタービジョンとの連携
- ④ 京都バイオシティ構想の推進
- ⑤ 伝統産業の活性化
- ⑥ 地域資源をいかした地域クラスター形成

*「知的クラスター創成事業」：地域において独自の研究開発テーマと潜在能力のある大学等を核とした技術革新システム。文部科学省において平成 14 年度から開始し、現在、京都を含む 18 地域で事業実施中

*「第Ⅱ期近畿地域産業クラスタービジョン」：人的ネットワークを核としたイノベーションの創出を目指す産業クラスター計画。経済産業省において平成 18 年度から第Ⅱ期が開始し、近畿地域では3つのプロジェクトが実施中

*「京都バイオシティ構想」：京都地域におけるライフサイエンス分野の優位性を生かした新たな産業形成を促進するための構想（平成 14 年 6 月策定）

個別施策

- ① 産学公連携による柔軟な仕組みづくり
- ② 産学公連携による地域における特色ある取組の推進
- ③ 産学公連携のための拠点整備の推進
- ④ 産業科学技術への主体的な市民・企業参画の促進

イノベーションを創発する担い手づくり

ア 「知」を育む

科学技術都市の構築のため、新たな価値を生み出す「知」の連鎖的な創出が欠かせません。そのため、産学公連携の下で独創的な研究開発を支援するとともに、地域経済の担い手である中小企業の技術力向上や新事業展開のための実用的な研究開発を支援することが必要となっています。

また、「知」を育む基盤となるものは、「ひと」です。一人ひとりの持つ能力が最大限発揮されるよう、人材育成に取り組んでいきます。

具体的施策

研究の推進

- ①技術革新の源泉となる独創的な研究開発の支援
- ②中小企業等の活性化につながる研究開発の支援

人材の育成

- ①外国人研究者など多様な人材の活用と交流促進
- ②科学技術に触れる身近な機会の提供

イ 「技」を磨く

科学技術都市の構築のため、創出された「知」を活用し応用する「技」を磨き上げなければなりません。そのため、国際競争や地域間競争が激化している中、持続的な発展を図るため、意欲あふれるベンチャー・中小企業への支援とそれを支える人材の育成に取り組めます。

また、知的財産の戦略的な創造や活用が図れるよう、国、府、産業支援機関等と連携した取組を進めていきます。

具体的施策

ベンチャー・中小企業の支援

- ①ベンチャー企業等の事業化促進
- ②ものづくりを支える中小企業の技術力向上への支援

人材の育成

- ①実践的な取組を志向した起業家等の養成
- ②社会から信頼を得るための人材の育成
- ③製造現場で中核となる人材の育成

知的財産の育成

- ①京都市知的財産戦略の策定

* 「知的財産戦略」：発明等により生み出される知的財産が適切・効果的に創造・保護・活用されるため、取り組むべき方向性を示した戦略

3 推進体制

産業科学技術の振興には、経済活動の担い手である産業界、企業が主役であり、その創意工夫を生かした取組を促進するため、大学や研究機関、市民、行政が交流し、連携を深めながら、それぞれの役割を担っていくことが求められています。

京都市の役割

産業科学技術の振興を図るため、司令塔となるべき組織として、「京都市産業科学技術推進委員会（仮称）」を設置します。その取組には、大学等や、企業、市民との交流・連携を図っていくとともに、個々の役割を十分に発揮することができるよう、環境整備や活動に対する支援を積極的に展開していきます。更に、国や府との連携を図る一方、各産業支援機関と十分協調し、より効率的で効果的な取組を進めていきます。

中核となる支援機関の役割

ア 京都市産業技術研究所

工業技術センター、繊維技術センターの立地的統合に向け、基本計画を検討中です。
両センターともに、地元中小企業の技術力向上を支援します。

イ（財）京都高度技術研究所

産学公連携による研究開発を通じて、科学技術振興と地域社会発展に寄与するとともに、次世代を先導する産業の創出、企業育成や人材育成を行います。

ウ（財）京都市中小企業支援センター

中小企業の経営の維持・発展を、経営・金融両面から支援します。（京都ものづくり企業縁むすびプロジェクト、企業価値創出支援事業、経営・融資相談など）

エ 中核となる支援機関の一体的連携

各支援機関について、それぞれの特色を十分発揮させながら、一体的な連携を図ることによって、地域クラスターの形成に貢献します。

「京都市産業科学技術振興計画（仮称）」
骨子案に対する意見募集について

詳しくは裏面をご覧ください。

■「京都市産業科学技術振興計画（仮称）」骨子案は、下記のホームページからご覧になれます。また本冊をご希望の方は、返信用切手120円分を同封のうえ、産学連携推進課（あて先は裏面を参照）までお申し込みください。

<http://www.city.kyoto.jp/sankan/super/>

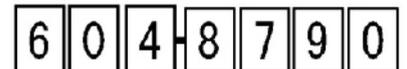


料金受取人払



差出有効期間
平成18年7月
31日まで

郵便はがき



777

（受取人）

京都市産業観光局商工部
産学連携推進課内

市民意見募集 係 行



〒				(匿名可)
ご住所				
ご氏名				
性別	男性・女性	職業		
年齢	歳代			

